



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	2025年 年次報告書
Author(s)	北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部; Advancement of Recurrent Education Division, Institute for the Advancement of Graduate Education, Hokkaido University
Description	北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部が2025年に行った活動を記録した年次報告書。
Issue Date	2026-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/99176
Type	report
File Information	Annual report 2025.pdf



2025年 年次報告書

ANNUAL REPORT 2025



北海道大学
大学院教育推進機構 リカレント教育推進部

Advancement of Recurrent Education Division,
Institute for the Advancement of Graduate Education, Hokkaido University

2025年 年次報告書

ANNUAL REPORT 2025

Contents

リカレント教育推進部のビジョンとブランドプロミス および信条と行動指針	2
巻 頭 言	3
2025 年度の実施概要	4
北海道大学リカレント教育実施体制の整備と運営状況	6
令和 6 年度補正予算「リカレント教育エコシステム構築支援事業」 ～グリーンビジネスと GX で拓く、未来志向リカレント教育エコシステムの構築～	8
令和 6 年度補正予算「リカレント教育エコシステム構築支援事業」 プログラム支援	10
学内外組織との連携による活動	11
高等教育推進機構との連携活動	12
広報・コミュニケーション	13
北海道大学リカレント教育プログラム	14
ReH の活動	15
広域複合災害減災を強力に推進する専門人材養成プログラム（N-HRP）	17
北海道大学エンジニアコミュニティ構築プロジェクト実践教育プログラム ～ Hokudai Tech Academy ～	18
北大道新アカデミー	20
共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム	22
2025 年度リカレント教育推進部年表	24
記事掲載、ワークショップおよび講演協力他、研究および外部資金の獲得	25

北海道大学

大学院教育推進機構 リカレント教育推進部



リカレント教育推進部のビジョンとブランドプロミス および信条と行動指針

リカレント教育推進部は、組織を発足するにあたり、2023年5月に組織のビジョン、ブランドプロミス、信条と行動指針を定めた。

ビジョン リカレント教育推進部が目指すもの、ゴール

研究と共に、人の新たな可能性を開拓する

ブランドプロミス リカレント教育推進部の受講者に対する約束

札幌農学校から引き継がれた開放的なキャンパスで、学びを重ね合わせ、新たな価値を共に探究する場を提供します

信条と行動指針 リカレント教育推進部の行動規範

信 条

真理を探究するマインドは、人の可能性を広げると信じている

行動指針

1. 感度の高いプログラムを提供するために感性を磨く
2. 試行錯誤しながら学べる環境をつくるために失敗を恐れない
3. 新しい教育のシステムを積極的に取り入れる
4. 学習者と教員・スタッフのネットワークを維持して、学びの継続に新たな価値を生み出す
5. 関わる全ての人への共感・尊敬を忘れず、何事にも力を合わせる



巻頭言



山本 文彦

北海道大学理事・副学長
大学院教育推進機構 機構長

北海道大学では、リカレント教育を推進するために、大学院教育推進機構の中に、リカレント教育推進部を設置し、学内外の多くの皆様にご協力いただきながら、種々の取組みを進めています。関係する皆様に改めて御礼申し上げます。

リカレント教育に対する社会のニーズは、かなり広範にあると考えています。そして学びたいと思う方々の目的もまた多様だと思います。その上、無料で自由に視聴できる多くのオンライン講座等もあります。大学がどのようなリカレント教育を実施するのか、しっかりと考えなくてはなりません。

他方、大学内に目を向けると、なぜ大学がリカレント教育に取り組む必要があるのか、学生の教育や研究あるいは管理運営等の業務で忙しく、リカレント教育を担当する時間がない、という意見も多くあるのではないかと思います。

大学は、日本の教育システムの中の最後の段階として、高校を卒業した学生を受け入れ、社会に送り出す機能を果たしています。しかしこれだけが大学の役割ではありません。大学がどのような社会的役割を果たすべきなのかを考える過程で、大学として目指すべきリカレント教育の姿が見えてくるのではないかと考えています。

リカレント教育推進部は、こうした根本的な問いに向き合いながら、さまざまなプログラムを推進していきます。多くの皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

「リカレント教育」とは何か？ 北海道大学はどのようなリカレント教育を通して何をめざすべきなのか？ これらの問いはリカレント教育推進部設立以前から議論されてきたものですが、今年度はあらためて考える機会が多かったように感じます。設立から4年がたち、ある程度業務が整ったことが、原点に立ち戻ることを促したのかもしれません。

2025年度に本学が開講したReH（北海道大学リカレント教育プログラム）は11プログラムとなりました（p.14）。このうち既存プログラムを制度変更したものとして、科学技術コミュニケーター養成プログラム（履修証明プログラム化）と医療AI開発者養成プログラムリカレント教育コース（リカレント教育プログラム化）の2件があります。また、新規開講プログラムとして、Hokudai Tech Academy、共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム（ささプロ）、広域複合災害対応力強化プログラム（N-HRP）の3件を実施しました。

さらに、令和6年度補正予算を基盤としたパイロットプログラムとして、GX未来社会デザイン実践プログラム（p.8-9）、データサイエンスブリッジプログラム（DX活用力養成カリキュラム）、Leadership Program Networkを実施しました（p.10）。あわせてオープンバッジ発行のための学内制度整理、ReH専用の学習管理システムの導入（p.8）、地方大学の実務担当者が一堂に会したリカレントサミット in 札幌の開催など、制度・基盤整備の面でも前進をしました（p.10）。

これらの取り組みを実施できたのは、学内外の多くの協力者の皆様、そして何より受講生の皆様の存在によるものです。ここにあらためて御礼申し上げます。

一方で、多様なプログラムを実施することで、業務バランスやプログラムの方向性を俯瞰的に捉えなおす必要ができました。「産業界向け」「地域・自治体向け」と言葉で区別することは容易ですが、その実態を的確に理解し、具体的に何をすべきなのかを判断し実行することはそれほど簡単ではありません。現状のReHを俯瞰すると、産業界向けのプログラムがやや多く、「地域・自治体向け」はやや手薄な傾向があります。しかし、北海道大学は北海道の国立大学として地域への貢献を重要な使命として担っています。このような問題意識のもと、今年度開催したリカレントサミット in 札幌では、多くの地方大学の実務担当者の皆様と情報交換・議論を行い、これらの課題を考える上で多くの示唆をいただくことができました。

来年度は弊部設立から5年という節目の年を迎えます。これまでの活動を振り返りつつ、さらに学内外との連携を強めて、これらの課題に対応していきたいと考えています。今後とも皆様のご理解とご協力をいただければ幸いです。



川本 思仁

北海道大学大学院教育推進機構
リカレント教育推進部 部長



2025 年度の実施概要

北海道大学は実学の重視という理念に基づき、昨今の社会が求める状況に対応するために、2022 年度 4 月に大学院教育推進機構にリカレント教育推進部を発足させた。リカレント教育推進部は、大学の知と産業界や自治体などの社会ニーズをマッチングした高度なリカレント教育を全学的に推進するための支援・実施組織である。本報告書は、2025 年度のリカレント教育推進部の事業を記録したものであり、本項ではその概要をまとめる。

1. 前年度までの概要

2022 年は学内組織と調整をしつつ事業方針を定めた。2023 年度には事業を本格化し、プログラム企画・実施のための内規等を整備するとともに、北海道大学リカレント教育プログラム（ReH）として 9 プログラム（新規 1・既存 8）を開講し、受講者数は約 1,600 名となった。2024 年度には 10 プログラム（新規 1・既存 9）に拡充し、受講生 1,816 名となった。またアドバイザリーボード開催、電子決済システム導入、ReH ポータルサイト開設によりさらに基盤を強化した。

2. 2025 年度の成果

2025 年度はこれまでの活動を基盤にさらに学内外の連携を強め、プログラム充実を実現した。後述するいくつかの課題はあるものの、2024 年度報告書でも記載したとおり、既に順調に第 4 期中期目標・中期計画に記載された評価指標を達成している。以降の 5 項目でその具体的成果の概要をまとめる。

制度・基盤整備

リカレント教育実施委員会の委員の分野と人数を拡充し、4 月、6 月、8 月に開催し、それぞれで Hokudai Tech Academy、広域複合災害対応力強化プログラム、共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム（ささプロ）の開講について審議した。また、2 月にアドバイザリーボードを開催し、有識者から助言を得た（p.6）。基盤整備としては 9 月にオンライン学習支援システムを導入し（p.8）、GX 未来社会デザイン実践プログラムとささプロで利用した（p.8-9、p.22-23）。またこのシステム導入にともない、ウェブサイトを 2026 年 3 月に更新した（p.13）。

広報・コミュニケーション

リカレント教育の広報や連携組織との協働を目的として 3 件の公開ワークショップと 2 件の公開イベントを開催した（p.11-12、p.25-26）。また、愛媛大学・広島大学等による「しまなみ未来社会人材育成プラットフォーム」と共に、地方大学の実務者を対象とした「リカレントサミット in 札幌」を開催し、課題等共有とネットワーキングを行った（p.10）。

リカレント教育プログラムの支援・実施

2025 年度の ReH は 11 プログラム（既存 7・既存制度変更 1・新規 3）となった（p.14）。そのうち以下 3 プログラムはリカレント教育推進部が編成部局となった。

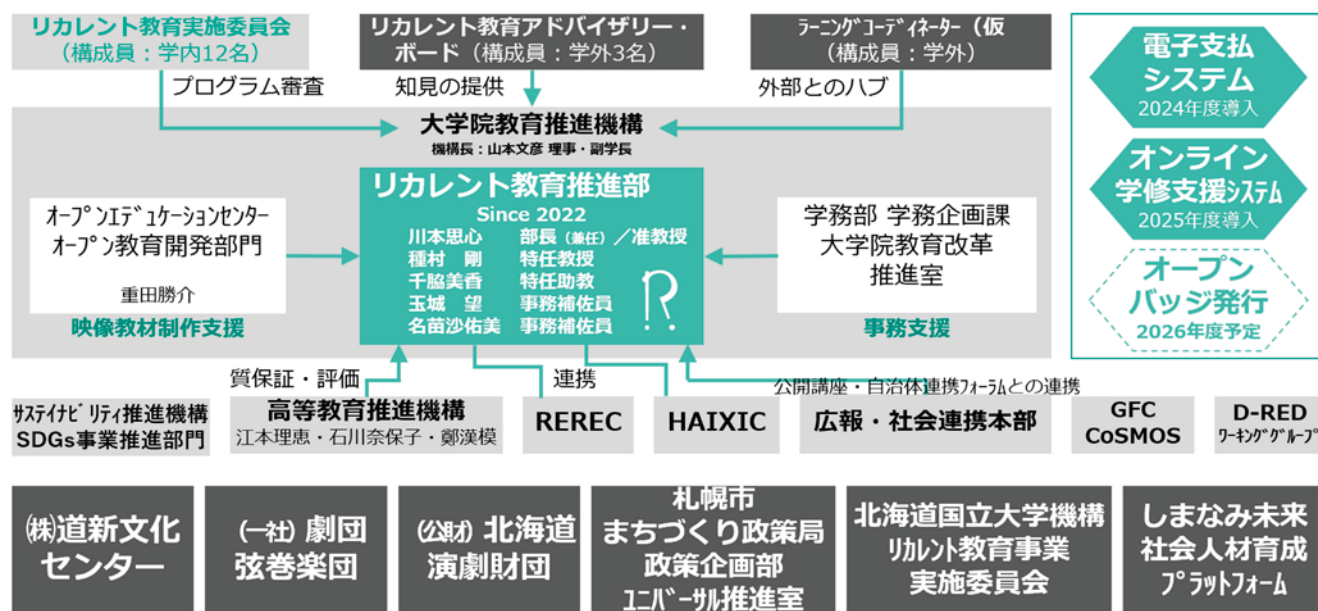
- ・ Hokudai Tech Academy（p.18-19）
- ・ 北大道新アカデミー（道新文化センター/北海道新聞社との共同主催）（p.20-21）
- ・ 共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム（p.22-23）

新規プログラムの立ち上げ準備

上記 11 プログラムとは別に、令和 6 年度補正予算リカレント教育エコシステム構築支援事業の助成により、GX 未来社会デザイン実践プログラム（GX 先導研究センター）、データサイエンスブリッジプログラム（総合イノベーション機構 データ駆動型融合研究創発拠点（D-RED））、Leadership Program Network（産学・地域協働推進機構 社会・地域創発本部）の 3 プログラムを実施した（p.8-10）。また ICRéDD を編成部局とする履修証明プログラムとして化学反応創成人材育成プログラムを企画・募集し、2026 年 4 月に開講予定である（p.15）。

学内外連携およびヒアリング調査

プログラムの企画・実施やネットワーキング等のために、従来の組織に加えて新たに、サステナビリティ推進機構 SDGs 事業推進部門（ささプロ）、GFC CoSMOS（Hokudai Tech Academy）、D-RED（データサイエンスブリッジプログラム）、北海道国立大学機構（Leadership Program Network）、しまなみ未来社会人材育成プラットフォーム（リカレントサミット in 札幌）、広報・社会連携本部社会連携部門（リカレントサミット等）と連携した。また、ニーズや課題把握のために学内外でヒアリング調査を行った。



リカレント教育推進部学内外連携図

3. 今後の展望

2024 年まで開講していた「AI と人間社会」プログラムと「プラス・ミュージアム・プログラム」は閉講となったが新規で 3 プログラム、文科省事業で 3 パイロットプログラムを開講し、さらに ReH は充実することとなった。一方、プログラム数が増えることで課題も具体化してきた。産業界向けプログラムと、地域・自治体向けプログラムは内容・受講生層・収支計画等の面でかなり異なり、目標と重点を改めて整理する必要がある。またステークホルダーとのネットワーキングの点でリカレント教育推進部単体での対応には限界がある。これらの課題を踏まえて、さらなる持続可能な全学的体制を築くことが今後の課題である。



北海道大学リカレント教育実施体制の整備と運営状況

持続可能な体制による安定的なリカレント教育を実施するため、リカレント教育推進部では関係委員会等の運営や実施体制の整備を実施している。2025年度は、以下の関係委員会等の運営及び体制整備を行った。

1. 大学院教育推進機構リカレント教育アドバイザリー・ボード会合の実施

本学のリカレント教育に関する事項について、大学院教育推進機構長の諮問に応じて助言を行うアドバイザリー・ボードを設置することについては、2023年8月大学院教育推進機構運営委員会の議を経て大学院教育推進機構リカレント教育アドバイザリー・ボード内規が制定されている。アドバイザリー・ボード委員は、リカレント教育に関するステークホルダーの代表により構成するものとして、経済・産業界においてイノベーションに繋がるリカレントに知見を有する、元DIC取締役会長・元北海道大学校友会エルム会長の杉江和男氏、地域開発・産業活性化等にかかる人材育成に知見を有する、元下川町長・(公財)はまなす財団専務理事の谷一之氏、リカレントによるキャリアパス形成に知見を有する、(株)三菱総合研究所主任研究員の数本沙織氏を委嘱した(任期(再任):2025年4月1日～2026年3月31日)。第3回となるアドバイザリー・ボード会合は2026年2月4日(水)に対面形式で実施した。

第3回アドバイザリー・ボード会合の概要

日時・場所	内 容
2026年2月4日(水) 14:00～15:30	山本理事からの諮問 (1) 2025年度リカレント教育推進部活動報告 (2) 2026年度リカレント教育実施に向けた取組方針 主なご意見
北海道大学事務局 中会議室A	・リカレント教育推進部のミッションが広く設定されすぎている。北大として誰に、どのような学びを提供するのかを明確にすべきである。その際には、職業的自立支援の思想が弱い日本固有の受講者ニーズや、女性のキャリア形成に関連するニーズを踏まえる必要がある。 ・北海道の地域特性を活用した、地方創生・観光・産業振興・人材誘致や食を視野にいたれたプログラムを企画すべきである。 ・自治体職員に求められる政策形成、合意形成、事業評価などの能力向上は喫緊の課題であり、とくに北海道では行政企画力の強化が必要になる。自治体職員に向けたリカレント教育を行うためには、夜間・土日・オンラインを組み合わせる柔軟な開講形態が不可欠である。 ・SDGsやGXなど社会的注目度の高いテーマを取り入れることは、教育を社会課題の解決に結びつけるうえで有効である。 ・受講者が継続的に学べるよう、導線設計、教材アクセス、コミュニティ形成などを含めた総合的な学習環境の強化が必要である。特に、受講後にも大学とのつながりを保つ仕組みづくりが有効である。産業界が求める人材像を踏まえると、受講者が小規模でもイノベーションを起こせるような能力育成が求められる。 ・財務的価値だけでなく、大学として提供できる社会的価値・非財務価値を明確に整理し、北大独自の価値を打ち出すことが重要である。

2. リカレント教育実施委員会の開催とリカレント教育プログラムの学内展開

北海道大学におけるリカレント教育の実施については、大学院教育推進機構リカレント教育推進部において支援・企画・立案を行うこととしており、リカレント教育の企画及び施策の審議機関として大学院教育推進機構にリカレント教育実施委員会を設置する内規を2023年8月に大学院教育推進機構運営委員会の議を経て制定している。委員は、大学院教育推進機構長、副機構長、リカレント教育推進部長、事務担当である学務企画課大学院教育改革推進室長を職指定としているほか、リカレント教育に知見・経験を有する学内の教員から担当理事の推薦に基づき総長から委嘱することとしており、2025年度は、新たに4名が加わり、以下の委員により構成されている。

実施委員会メンバー

山本文彦	北海道大学理事・副学長・大学院教育推進機構長
藤田 修	工学研究院教授・大学院教育推進機構副機構長
川本思心	理学研究院准教授・大学院教育推進機構リカレント教育推進部長
石黒侑介	メディア・コミュニケーション研究院准教授
工藤與亮	医学研究院 教授
林 重成	工学研究院 教授
種村 剛	大学院教育推進機構リカレント教育推進部特任教授
細川雅史	水産科学研究院教授
厚井高志	広域複合災害研究センター特任准教授
山崎幹根	公共政策学連携研究部教授
美多 剛	総合イノベーション創発機構化学反応創成研究拠点教授
学務部学務企画課大学院教育改革推進室長	

リカレント教育実施委員会

開催名	日時／場所	内 容
第4回リカレント教育実施委員会	2025年4月8日 高等教育推進機構大会議室	「リカレント教育プログラムの開設について」を議題として、「Hokudai Tech Academy生成AI×音声認識×Raspberry Piをゼロから学ぶコンピューターサイエンス」の2025年度開設について審議・了承
第5回リカレント教育実施委員会	2025年6月10日 高等教育推進機構中会議室及びオンライン	「リカレント教育プログラムの開設について」を議題として、「広域複合災害減災を強みに推進する専門人材育成プログラム」の2025年度開設について審議・了承
第6回リカレント教育実施委員会	2025年8月4日 オンライン	「リカレント教育プログラムの開設について」を議題として、「共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム」の2025年度開設について審議・了承

今後は、プログラムの更なる拡充を図るとともに、企業、自治体等を対象とした組織単位でのリカレント教育プログラムを開設することを計画している。

3. 「北海道大学リカレント教育プログラムの開発・実施マニュアル」の策定

リカレント教育プログラムを開始・運営するにあたり、学内教職員からリカレント教育推進部への相談が年々増加している。そこで、本学において新たにリカレント教育プログラムを企画・開設・実施する際に参照する、本学教職員への手引きとして「北海道大学リカレント教育プログラムの開発・実施マニュアル」を策定し、全学的に展開する準備を進めている。本マニュアルは、これまで開設してきたリカレント教育プログラムの実務を担当する各部局・担当教職員からの疑問に対応し、本学が目指すリカレント教育の全体像、履修証明プログラムとリカレント教育プログラム（狭義）の概要・定義、実施に向けた準備、留意事項などから構成されている。本マニュアルを全学的に展開することで、円滑なリカレント教育プログラムの構築に繋がり、機動的かつ継続的なリカレント教育を実施することが期待される。

4. 文部科学省「職業実践力育成プログラム」（BP）の認定・厚生労働省「教育訓練給付制度」の適用

2024年度に開設した履修証明プログラム「地域イノベーションプロデューサー塾（RIPS）」及び2025年度に開設した履修証明プログラム「科学技術コミュニケーター養成プログラム（CoSTEP）」については、社会人の職業に必要な能力の向上を図る実践的・専門的なプログラムとして文部科学省に申請し、2025年4月以降実施分について職業実践力育成プログラム（BP）として文部科学大臣から認定された。更に、BPのうち一定の基準を満たす教育訓練として、厚生労働省が実施する教育訓練給付金の支給対象となる教育訓練講座の指定申請を行い、厚生労働大臣から指定を受けた。

「地域イノベーションプロデューサー塾（RIPS）」とともに2024年度に開設した履修証明プログラム「地域イノベーションアドバイザー塾（RIAS）」については、2026年4月以降実施分について文部科学省及び厚生労働省へ申請し、BPとして認定されるとともに教育訓練講座の指定を受けた。



令和6年度補正予算「リカレント教育エコシステム構築支援事業」 ～グリーンビジネスとGXで拓く、未来志向リカレント教育エコシステムの構築～

「グリーンビジネスとGXで拓く、未来志向リカレント教育エコシステムの構築」（以下、本事業）は、令和6年度補正予算により創設された文部科学省「リカレント教育エコシステム構築支援事業」の補助金を活用して実施したものである。この補助金は、地方創生および産業成長を支える人的資本投資を加速するため、産学官が協働して企業の成長に直結するリカレント教育プログラムを開発・提供するとともに、それを持続的に提供できる体制を構築することを目的としている。

リカレント教育推進部では、この補助金を活用し「グリーントランスフォーメーション（GX）とネイチャーポジティブ（NP）」をキーワードに、本事業を①基礎編の座学プログラムと、②応用編のフィールドワークプログラムを一体的に設計するとともに、③永田町での政策セミナーを通じて、産学官の対話とネットワーキングを推進する取組実施を支援した。

あわせて、基礎編においてオンデマンド講義の配信を行うため、講義動画の提供および受講状況の把握を一元的に行う学習管理システム（LMS）を導入し、社会人受講者が時間や場所の制約を受けずに学習できる環境整備を行った。

1. GX 未来社会デザイン実践プログラム（基礎編）

基礎編では、GX（脱炭素と成長の両立）とネイチャーポジティブ（生物多様性の損失の停止・反転）を共通言語として、政策・制度・技術・ファイナンスおよび実装手法を横断的に学ぶ全8回のハイブリッド・オンデマンド講義を実施した。受講者数は115名にのぼり、企業のGX推進担当者やサステナビリティ部門の関係者など、多様なバックグラウンドを持つ参加者が受講した。各回の講義を通じて、GX・ネイチャーポジティブ分野で現場をリードできる人材として必要となる基礎知識と最新動向を体系的に整理し、自組織での活用イメージを具体化する機会を提供した。

GX未来社会デザイン実践プログラム（基礎編）実施概要

プログラム名	GX未来社会デザイン実践プログラム（基礎編）
期 間	2025年10月7日（火）～12月5日（金）（全8回）
実施時間	18：15～19：45（90分）
形 式	ハイブリッド（北海道大学構内会場＋オンライン配信）・オンデマンド配信
受 講 料	無料
対 象 者	・企業においてGX・ネイチャーポジティブを推進する中核人材 ・GX・ネイチャーポジティブ分野での起業を目指す個人・チーム ・GX・ネイチャーポジティブ志向のスタートアップ ・研究成果の社会実装を志向する学生・研究者 等
受講者数	115名
修了要件	各回講義後のミニレポート（200～300字）の提出 ・講義内の主要キーワードを2語以上用いて記述 ・レポート提出をもって「出席」扱い 出席回数が6回以上
修了者数	63名
主 催	GX先導研究センター

2. GX 未来社会デザイン実践プログラム（応用編）

応用編では「企業は100年後の森に何を残せるのか？」を問いかけの軸として、森林生態系の長期視点を踏まえたネイチャーポジティブ経営のあり方を探究する2泊3日のフィールドワークを実施した。参加者12名が、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター雨龍研究林をフィールドとして訪れ、現場観察や研究者との対話に加え、デザインワークや企業の未来を考えるプロトタイピングに取り組んだ。これらの活動を通じて、森の100年スケールの変化と企業活動との関係を具体的に捉え直し、企業の長期ビジョンや事業構想へとつなげる実践的なプログラムとして展開した。

GX未来社会デザイン実践プログラム（応用編）実施概要

プログラム名	GX未来社会デザイン実践プログラム（応用編）
会 場	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 雨龍研究林
日 程	2025年12月16日（火）～12月18日（木）
形 式	2泊3日集中合宿
受 講 料	無料
参 加 費	7,980円（宿泊・食事等の実費）
参加者数	12名
主 催	北方生物圏フィールド科学センター

3. 政策セミナー in 永田町

東京・永田町において、GX・ネイチャーポジティブに関する政策動向と自然資本市場の最前線を共有し、企業・行政・大学間の連携を深める政策セミナーを開催した。参加者は27名で、基礎編の受講生に加え、案内を通じて関心を寄せた企業関係者などが集い、講演およびディスカッションを通じて、各組織における具体的な取組や今後の連携の方向性について意見交換を行った。

政策セミナー in 永田町実施概要

セミナー名	政策セミナー「自然資本市場の最前線—北海道を核とした新たな産官学連携—」
会 場	MIDORI.so NAGATACHO（東京都千代田区平河町2-5-3）
日 時	2025年11月27日（木）19：00～21：30（90分）
形 式	対面
参加者数	27名
主 催	北方生物圏フィールド科学センター リニューアブルエナジーリサーチ&エデュケーションセンター サステイナビリティ推進機構

4. 事業の総括

本事業では、基礎編・応用編・政策セミナーを相互に関連させることにより、「知識の習得（座学）」「現場での実践（フィールドワーク）」「政策・市場との接続（セミナー）」を一体的に構成した。これにより、GX・ネイチャーポジティブに関わる人材に対して、政策・制度・技術・ファイナンスからフィールドでの実装、さらには自然資本市場や政策動向までを見通した学びの機会を提供し、分野横断的な知識と実践力、産学官のネットワークを同時に強化する枠組みを構築することができた。

また、事業の成果を単年度のプログラムにとどめず、中長期的に発展させるための基盤整備として、エコシステム形成を目的としたパートナー企業を募る仕組みの制度設計を行った。当該制度により、企業が継続的に教育プログラムへの参加や政策対話の場に参画しうる枠組みを整備し、今後の連携強化および事業の持続可能な運営、さらには地域・社会におけるGX・ネイチャーポジティブの実装を支えるエコシステムの形成につなげていくことが期待される。



令和6年度補正予算「リカレント教育エコシステム構築支援事業」プログラム支援

リカレント教育推進部は、令和6年度補正予算「リカレント教育エコシステム構築支援事業」に伴い、北海道大学
の他組織が行ったパイロットプログラムを2件支援した。また共同主催でサミットを1件開催した。

1. データ駆動型融合研究創発拠点による「建設・インフラ分野向けDXプロフェッショナル人材育成プログラム」

北海道大学総合イノベーション創発機構データ駆動型融合研究創発拠点（D-RED）は、当該事業におけるメニュー
②「リカレント教育による新時代の産学協働体制構築事業」の1プログラムとして「社会変革を先導するDXプロ
フェッショナル人材育成一ケーススタディ型学習による人材輩出の加速化」の採択を得た。企業の成長に資する
DXプロフェッショナル人材の育成及び輩出を目的に、北海道の地域ニーズを踏まえ、今年度は建設・インフラ業種
分野向けに「DX活用力養成カリキュラム」「ビジネススキル養成カリキュラム」「データアナリスト・データアキ
ュムレータ養成カリキュラム」を含むプログラムを開講し、実施した。

建設・インフラ分野向けDXプロフェッショナル人材育成プログラム概要

年度内開講期間	2025年11月17日～2026年3月31日
形式／構成	オンライン・オンデマンド形式の講義（9講義）＋ケーススタディ演習（約1週間の間にオンラインでのグループワーク） ＋セミナー形式の最終報告会（各グループ発表10分）
受講料	無料
受講者数	3社22名（2026年2月20日時点） ※年度内に4社目が受講予定
主催	総合イノベーション創発機構 データ駆動型融合研究創発拠点

2. 社会・地域創発本部による「Leadership Program Network」

北海道大学産学・地域協働推進機構社会・地域創発本部（S-RED）は「次世代経営人材・地域活性化人材育成のため
の北海道リカレント教育エコシステム構築事業」（北海道国立大学機構）の一環として「Leadership Program
Network」を実施した。

Leadership Program Network 実施概要

実施日（会場）	2026年1月15日（札幌会場）・16日（苫小牧会場）、2月12日（東京会場）
形式／時間数	対面／1日目5時間 2日目6時間 3日目7時間（1日、3日目に、ネットワーキング会を併設：自費）
対象者／受講料	地域と都市を繋ぐリーダーを目指す方、地域活動に興味のある方／100,000円（複数企業等に割引） 東京から苫小牧への旅費は自費
受講者数	8社（地元3社を含む） 10から15名／回
主催／協力	主催：社会・地域創発本部／協力：苫小牧市、SUNDRED株式会社

また、社会・地域創発本部は、2025年度中に別のプログラムの実施も計画している。

3. リカレント教育推進部による「リカレントサミット in 札幌：地域共創型プログラムの実践と展望」

リカレント教育推進部は「しまなみ未来社会人材育成プラットフォーム「地域ハブ人材創出支援事業」（愛媛大
学）の一環として「リカレントサミット in 札幌～地域共創型プログラムの実践と展望」を開催した。

リカレントサミット in 札幌：地域共創型プログラムの実践と展望実施概要

実施日時／場所	2026年1月28日（水）9：30～17：00 オープンイノベーションハブ エンレイソウ
形式／構成（参加者数）	対面／1部事例報告：地方先進プログラムの展開（42名）、2部事例報告：道内のリカレント教育・地域連携の状況（43名）、 3部：ワークショップ（37名うち見学5名）
主催	大学院教育推進機構リカレント教育推進部・しまなみ未来社会人材育成プラットフォーム
共催／協力	共催：愛媛大学地域協働推進機構・広島大学地域連携部／協力：広報・社会連携本部社会連携部門



学内外組織との連携による活動

リカレント教育推進部は、学内外組織と連携して3件の活動を行っている。

1. エンレイソウトークイベント Knowledge Park vol.04 ～コミュニケーションビギナーズ STEP 講座～

新学期の学生・教職員の関係性づくりを目的として、まず石黒侑介准教授（メディア・コミュニケーション研究院）と川本思心（リカレント教育推進部）が話題提供をした後に、自己紹介と今年1年の目標をテーマとしてレゴ®シリアスプレイ®メソッドと教材を活用したワークショップを川本が実施した。グループファシリテーターは齋藤厚作・松山元樹（北海道LSPファシリテーターズ）が担当した。

エンレイソウトークイベント Knowledge Park vol.04～コミュニケーションビギナーズ STEP 講座～ 概要

日時/場所	2025年5月22日（木）18：00-20：00 / 北海道大学コミュニケーションハブ エンレイソウ エンライト
方 式	レゴ®シリアスプレイ®メソッドと教材を活用したワークショップ 事前申込・定員先着30名
参加人数	16名（各4名の4グループで実施）
主 催	北海道大学広報・社会連携本部社会連携部門
共 催	北海道大学大学院推進機構リカレント教育推進部
協 力	北海道LSPファシリテーターズ



エンレイソウトークイベントの様子

2. さっぽろまちづくりワークショップ

札幌市からの依頼により、「公園」をテーマとしたレゴ®シリアスプレイ®メソッドと教材を活用したワークショップを実施した。ワークショップの設計・当日進行は川本思心（リカレント教育推進部）が担当し、グループファシリテーターは齋藤厚作・佐藤良美・松山元樹（北海道LSPファシリテーターズ）が担当した。なお本企画は札幌市まちづくり政策局政策企画部企画課による市立高校生等を対象とした「まちづくりコンペティション 2025」において最優秀賞を受賞した高校生2名（実施時は大学生）の提案を実現したものである。

さっぽろまちづくりワークショップ 概要

日時/場所	2025年9月6日（土）13：00-16：00 / 北海道大学コミュニケーションハブ エンレイソウ メインラウンジ
方 式	レゴ®シリアスプレイ®メソッドと教材を活用したワークショップ 事前申込・定員30名
参加人数	24名（各4名の6グループで実施）
主 催	札幌市
共 催	北海道大学広報・社会連携本部社会連携部門／北海道大学大学院推進機構リカレント教育推進部
協 力	北海道LSPファシリテーターズ



まちづくりワークショップの様子

3. 「共生のまちづくり」を考える市民ワークショップ

ささプロで連携している札幌市まちづくり政策局ユニバーサル推進室からの依頼により、「つながる札幌条例」（2025年3月28日札幌市制定）がテーマとする「共生」について対話するワークショップ実施に協力した。まず冒頭でユニバーサル推進室がつながる札幌条例について簡単な説明をした後に、レゴ®シリアスプレイ®メソッドと教材を活用したワークショップを実施した。ワークショップの設計・当日進行は川本思心（リカレント教育推進部）が担当し、グループファシリテーターは種村剛（同）、佐久間泉真（ささプロ）、齋藤厚作・戸来友美・松山元樹・村上彩子（北海道LSPファシリテーターズ）が担当した。本ワークショップはささプロの実践活動であり、同時に今後のささプロ修了生の活動の場づくりを念頭においた活動としても位置づけられる（p.23）。

「共生のまちづくり」を考える市民ワークショップ 概要

日時/場所	2025年12月13日（土）13：00-16：30 / TKPガーデンシティ PREMIUM札幌大通7D
方 式	レゴ®シリアスプレイ®メソッドと教材を活用したワークショップ 札幌市内住民登録者から2000名を無作為抽出し案内を送付。参加申込みがあった86名から抽選で30名を決定（当日5名欠席）
参加人数	25名（各4～5名の6グループで実施）
主 催	札幌市まちづくり政策局ユニバーサル推進室
協 力	北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部／共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム／北海道LSPファシリテーターズ



高等教育推進機構との連携活動

リカレント教育推進部は高等教育推進機構と連携した活動を2件行った。

1. 令和7年度 IDE 大学協会北海道支部セミナーへの協力

2025年9月1日（月）、IDE 大学協会北海道支部が主催となり、北海道大学学術交流会館で、令和7年度 IDE 大学協会北海道支部セミナー「知の循環と地域創生：リカレント教育による大学の挑戦と展望」が実施された。リカレント教育推進部は本セミナーに対して、登壇者のコーディネートおよび、当日のパネルディスカッションの司会進行およびその支援担当として参画した。

本セミナーでは、信州大学副学長 林靖人氏が特別講演「大学経営における学びの再定義～生涯キャリア形成支援と探究パートナーの育成へ～」を行なった。続いて、北海道大学広域複合災害研究センター特任准教授 川村壮氏、北海商科大学商学部准教授 千葉里美氏、公益財団法人はまなす財団専務理事 谷一之氏が事例報告を行なった。

パネルディスカッションでは、山本文彦 北海道大学理事・副学長とリカレント教育推進部部長の川本思心がファシリテーターを務めた。会場からの質問の取捨選択を、リカレント教育推進部特任教授の種村剛が行なった。パネルディスカッションでは、大学における学びの意味や、リカレント教育のプログラム作りや仕組みづくり、修了生とのネットワーキングについて意見交換が行われた。



パネルディスカッションのファシリテーターを務める川本思心
リカレント教育推進部部長

令和7年度 IDE 大学協会北海道支部セミナー概要

時 間	2025年9月1日（月）13：00～16：30
会 場	北海道大学学術交流会小講堂
形 式	対面・オンラインのハイブリッド開催
参 加 者	対面21名、オンライン67名 合計88名

2. 第74回東北・北海道地区高等教育研究会における話題提供

2025年9月11日（木）、北海道大学高等教育推進機構棟を会場にして、第74回東北・北海道地区高等教育研究会が開催された。本研究会は大学等における高等教育に関する研究を行うことを目的とし、年1回実施されるものである。

1日目に開かれた第3分科会「地域とともに育む高等教育の未来」で、種村剛特任教授が筆頭の報告者として「札幌市の社会課題に対応したリカレント教育プログラムの企画・実施～「共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム」を事例として～」として、リカレント教育推進部が行なっている、共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラムについて話題提供を行なった。



話題提供を行う種村剛特任教授

広報・コミュニケーション

北海道大学リカレント教育プログラム（ReH）を、受講検討者はもちろん、プログラム主催に関心のある学内外のステークホルダーに伝えるために、ポータルサイトとSNSの運営、および『北海道大学概要 2025』への掲載を行った。なお、学内外連携によるコミュニケーションはp.4-5、メディア掲載等はp.25を参照されたい。

1. ReH ポータルサイトの公開・改修

2024年8月1日に公開したReHポータルサイト（アドレス <https://rec.grad.hokudai.ac.jp>）は、学習機会を探している社会人にとっての窓口になるように、ReH各プログラムだけではなく、公開講座や大学院社会人入試のウェブサイトも含めて一覧的に掲載を行っている。本サイトでは、プログラムの紹介や募集だけではなく、リカレント教育推進部が実施するイベント告知や報告記事、ReHの受講者やプログラム担当者のインタビュー記事を掲載している。また「リカレントニュースダイジェスト」では、国内のリカレント教育の現状や政策動向を紹介している。

本サイトは、学外の受講希望者だけではなく、新規にリカレント教育プログラムの企画・実施を検討している学内外者のために、リカレント教育推進部の支援内容の概要も掲載している。

現在、ReHポータルサイトは、次年度に向けて改修の準備を進めているところである。



ReHポータルサイトと
QRコード



2. SNS等の運用

Facebook ページ「北大リカレント：ReH」（<https://www.facebook.com/hokudai.rec.office>）を引き続き運用した（2023年9月29日開設）。2023年度は48本を投稿、2024年度は72本を投稿（2024年12月末までに60本を投稿）している。2025年度は2025年12月末までに93本を投稿している。Facebook ページ登録者数は225名である（2025年1月現在）。

Facebook ページでは、自組織の活動を紹介するだけではなく、各ReHや学外関係組織の記事もシェアし、リカレント教育に広く関心のある対象にむけて発信している。

また動画コンテンツの公開のためにYouTube「【ReH】北海道大学リカレント教育推進部」（<https://www.youtube.com/@hu.recurrent>）を引き続き運用している（2023年3月28日開設）。現在公開している広報動画は7本。そのほか「ささプロ」（p.22-23）の講義の一部（3本）とオンデマンドによる受講説明会の様子を期間限定で一般公開した（現在は非公開）。



YouTube「【ReH】北海道大学リカレント教育推進部」

3. 『北海道大学概要 2025』掲載

北海道大学の全事業が掲載されている『北海道大学概要』に、2024年度に設けたリカレント教育プログラムの欄に、2024年度の実績として10プログラムと実施組織、受講者数を掲載した（2025年7月発行 p.56）。



北海道大学リカレント教育プログラム Recurrent Education Programs in Hokkaido University : ReH

リカレント教育推進部は、既存のリカレント教育プログラムを全学的に支援するため「北海道大学リカレント教育プログラム（Recurrent Education Programs in Hokkaido University : ReH）」を明確化した。ReHは、社会人の学び直しを目的とした専門性の高い教育プログラム群であり、一般教養型、職能型、専門職型、履修証明プログラムの4タイプがある。一部プログラムは受講や修了に審査が必要である。企業や自治体と共同で実施するプログラムもある。

北海道大学リカレント教育プログラム（ReH）一覧

種類	プログラム名(略称)	実施組織	募集・開講期間・受講者のべ人数 (2025年12月時点)／開講回数
一般教養型 教養を深め人生を豊かに	北大道新アカデミー	リカレント教育推進部、 道新文化センター	募集：前期3月・後期7月 開講：前期4月中旬～6月下旬、 後期9月下旬～11月下旬 受講者：313人
	Hokkaido サマー・インスティテュート (HSI) extension/professional program in Japanese	高等教育推進機構	募集：3月以降(選択科目により異なる) 開講：6月～10月 受講者：54人
職能型 仕事に活かせる実践的な知識やスキルを学び、キャリアアップ	Hokudai Tech Academy	大学院教育推進機構	募集：4月～6月 開講：6月～8月 開講回数：9回 受講者：20人
	共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム	大学院教育推進機構	募集：8月～9月 開講：10月～2026年1月 受講者：22人
専門職型 専門性を向上。受講に要資格・職歴	広域複合災害対応力強化プログラム (N-HRP)	広域複合災害研究センター (CNHR)	募集：7月～8月 開講：10月～2026年2月 受講者：6人
	医療AI開発者養成プログラム (CLAP) リカレント教育コース	大学院医学研究院 画像診断学教室 ヘル スケアAIXイノベーションセンター事務局	募集：5月以降 開講：科目により異なる 受講者：16人(延べ人数)
	動物医療センター卒業教育セミナー	動物医療センター	募集：適宜申込 開講回数：6回 受講者：221人(延べ人数) ※2026年1月現在
履修証明プログラム 修了時に文部科学省認定の履修証明書を付与	化学反応創成人材育成プログラム ※2026年度開講予定	大学院教育推進機構、化学反応創成研究 拠点 (ICReDD)	募集：2026年1月 開講：2026年4月～翌年1月
	地域イノベーションプロデューサー塾／ 地域イノベーションアドバイザー塾 (RIPS/RIAS) ベーシックコース	大学院教育推進機構、 産学・地域協働推進機構	募集：3～4月 開講：6月～9月 RIPS受講者：11名 RIAS受講者：3名
	地域イノベーションプロデューサー塾／ 地域イノベーションアドバイザー塾 (RIPS/RIAS) アドバンスコース	大学院教育推進機構、 産学・地域協働推進機構	募集：8～9月 開講：10月～1月 RIPS受講者：8名 RIAS受講者：2名
	DESTINATION・マネージャー育成プログラム	国際広報メディア・観光学院	募集：1月 開講：4月上旬～翌2月上旬 受講者：6人
	科学技術コミュニケーター養成プログラム (CoSTEP)	大学院教育推進機構オープンエデュケー ションセンター科学技術コミュニケー ション教育研究部門	募集：3月下旬～4月中旬 開講：5月中旬～3月中旬 本科 18名 選科 54名 研修科 3名 (受講者計75名)
	臨床医学の献体利用を推進する専門人材養成プログラム (CCRP)	医学院	募集：9月上旬～10月下旬 開講：11月～9月 受講者：8人



ReH の活動

2025 年に運営体制の変化があった ReH（北海道大学リカレント教育プログラム）の活動を整理する。

1. プログラムの閉講

「AI と人間社会」プログラム

リカレント教育推進部と人間知・脳・AI 研究教育センター（CHAIN: Center for Human Nature, Artificial Intelligence, and Neuroscience）が実施した「AI と人間社会リカレントプログラム」は、初年度（2023 年度）は補正予算事業としてプログラムを実施し、次年度である 2024 年度も前年度と同様の内容で継続して開講したが、2024 年度の開講をもって開催を終了した。2024 年度の実績は、コース 1a「AI 倫理」が受講 18 名／修了 16 名、コース 1b「AI から広がる知：異分野融合」が受講 18 名／修了 16 名、コース 2（エキスパートコース）は開講を取りやめた。

プラス・ミュージアム・プログラム

文学研究院が実施する、プラス・ミュージアム・プログラムは 2024 年度、3 回のシンポジウムと、5 回の「「となりのしばふ」シリーズ」を実施した。これにより、2022 年度から継続して実施してきた 3 年間のリカレント教育プログラムは終結した。

2. ICRReDD 履修証明プログラム新規開講

北海道大学化学反応創成研究拠点（ICReDD: Hokkaido University Institute for Chemical Reaction Design and Discovery）は、2026 年 4 月から、社会人を対象とした履修証明プログラム「化学反応創成人材育成プログラム」を開講する。プログラムの目的は、ICReDD の計算科学・情報科学・実験科学の異分野融合型研究アプローチを通じて、最先端の化学反応創成手法を学び、履修者が自らの研究開発に応用するための実践的知見と学際的視点を体系的に修得することである。大学卒業以上の社会人研究者・技術者を対象とし、受講料は 162,800 円（11 単位相当）として設定した。定員は 5 名程度である。2026 年 1 月に受講生の募集を開始し、2 月の締め切りまでに、3 名の申し込みがあった。

3. 医療 AI 開発者養成プログラム（CLAP）リカレント教育コースの再編・開講

北海道大学ヘルスケア AIX イノベーションセンターが推進する医療 AI 開発者養成プログラム（CLAP: Clinical AI Human Resources Development Program）は、2021 年度より「地域ならではの様々な医療課題を取り上げ、AI による課題解決を行える人材を広く養成すること」を達成目標として実施している。2025 年度は、社会人向けの医療 AI 教育に特化して、従来の社会人向け教育をインテンシブコースから切り出し、新たに「リカレント教育コース」を編成・開講した。本コースは履修年限が 2 年間で医療 AI 開発に参画できる人材を目指す構成とし、医療 AI に関心がある高校卒業以上で日本在住等の要件を満たす社会人等を対象としている。受講は科目群単位とし、受講料を設定している。

4. 北海道大学科学技術コミュニケーター養成プログラム（CoSTEP）の履修証明プログラム化等

北海道大学科学技術コミュニケーター養成プログラム（CoSTEP）は、2005 年に北海道大学に文部科学省科学技術振興調整費による委託事業として設立された。北海道大学の中では最も古い、大学院生と社会人が共に学ぶ共修を取り入れた、リカレント教育プログラムの 1 つである。2010 年からは、北海道大学独自の事業として展開している。CoSTEP はこれまで「本科」「選科」「研修科」の 3 つの履修コースを設置し、独自の料金体系で受講料を徴収していた。

2025 年度、CoSTEP は、講義の一部を大学院共通授業科目とすることで、「本科」と「選科」を北海道大学の履修証明プログラムとして再編成した。この改編に合わせて、CoSTEP は、2025 年度より、文部科学省の「職業実践力育成プログラム（BP）」の認定を受け、同時に、厚生労働省の「専門実践教育訓練講座」に指定されている。

CoSTEP の従来の料金体系と履修証明プログラムの料金体系

コース	種 別	従来料金 (税込)	履修証明プログラム料金 (税込)
本 科	北海道大学に在籍する学生	20,000 円	74,000 円
	上記以外	48,000 円	192,400 円
選 科	北海道大学に在籍する学生	10,000 円	74,000 円
	上記以外	23,000 円	162,800 円

研修科は履修証明プログラム化せず、従来の料金体系 (北海道大学に在籍する学生 20,000 円、それ以外 38,000 円) を継続している。

5. 臨床医学の献体利用を推進する専門人材養成プログラムの科目変更等

医学院において開設されている履修証明プログラム「臨床医学の献体利用を推進する専門人材養成プログラム」は、2019～2021 年度文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム採択「臨床医学の献体利用を推進する専門人材養成」事業を継承し、主に社会人を対象として実施している履修証明プログラムである。本プログラムは、献体を使用した手術手技研修や研究開発の実施に必須な関連法規、感染防御、COI・知財マネジメント等を体系的に学ぶことにより、献体を使用した医工連携・産学連携を推進できる人材を養成することを目的としている。

2025 年度は、受講の選択肢を拡げるため、新たに選択科目を追加するとともに、必修科目の講義内容と構成を見直し、開講時期を後ろ倒して実施した。

6. 「地域イノベーションプロデューサー塾」及び「地域イノベーションアドバイザー塾」の BP 認定および特定一般教育訓練講座指定

「地域イノベーションプロデューサー塾」及び「地域イノベーションアドバイザー塾」（以下、「RIPS/RIAS」）は、東北大学経済学研究科地域イノベーションスクールと北海道大学産学・地域協働推進機構スタートアップ創出本部が連携して、2024 年度から北海道大学の履修証明プログラムとして開講している。

RIPS は、2025 年度より、文部科学省の「職業実践力育成プログラム（BP）」の認定を受け、同時に、厚生労働省の「特定一般教育訓練講座」に指定されている。RIAS については、2026 年度より認定・指定を受けている。これにより、プログラムの質が保証されるとともに、受講者負担軽減による持続的な受講者確保が期待される。



広域複合災害減災を強力に推進する専門人材養成プログラム(N-HRP)

日本では、豪雨・地震・火山噴火などの自然災害が頻発し、山崩れ、洪水氾濫、津波、地盤沈下など複数の事象が連鎖する「広域複合災害」が各地で発生している。こうした多様な災害リスクに対して、科学的知見に基づき、発災前から復旧・復興に至るまで一貫して対応できる専門人材の育成が求められている。北海道大学広域複合災害研究センター(CNHR)は、この社会的要請に応え、広域複合災害減災を強力に推進する専門人材養成プログラム(N-HRP)を開講した。本プログラムはリカレント教育推進部が取りまとめている「社会人を対象としたリカレント教育プログラム」として2025年10月1日から開講となった。

1. 開講までの手続き

CNHRにおいてプログラム構想(対象者・身につけさせたい能力・講義構成等)が検討された後、リカレント教育推進部との間で、開講形態(全30回/90分、対面とオンデマンドの併用)、受講料水準、募集人数、募集方法などについて協議を行った。

そのうえで、大学院教育推進機構の所掌するリカレント教育プログラムとして位置づけることが妥当であると判断され、所定の学内手続きを経て、2025年10月1日開講・2026年2月5日修了のスケジュールで実施することが決定された。本学リカレント教育プログラムのウェブサイト上にプログラム紹介ページおよび「受講者募集」記事を掲載し、CNHRのウェブサイト(News & Events)およびFacebookと連動させる形で広報を行った。

2. 講義の目的・内容

本プログラムは、巨大地震や火山噴火等が引き起こす広域複合災害発生時に、災害対応・危機管理・復旧・復興の「核」となりうる人材を育成することを目的としている。発災前の備えから、発災時・直後の初動対応、そして中長期の復旧・復興に至るまでを一貫して見通す「災害マネジメントサイクル」の観点から、体系的な知識と実践的な対応能力を身につけることを目指す。

講義は全30回(各90分)で編成され、災害のメカニズム、ハザードマップや各種データにもとづくリスク評価、災害関連法令・制度、避難計画と避難所運営、医療・衛生、インフラ・ライフライン対策、災害廃棄物処理など、多様なテーマをカバーする。大学の研究者による講義に加え、実務家教員によるケーススタディを取り入れることで、現場での意思決定に役立つ実践的な内容とした。また、グループワークの実施により、受講生や教職員とのネットワーク形成も、本プログラムの重要な目的のひとつである。

実施概要

名 称	広域複合災害減災を強力に推進する専門人材養成プログラム(N-HRP)
開講期間	2025年10月1日(水)～2026年2月5日(木)
講義回数	全30回(1回90分)
実施形態	対面講義とオンデマンド講義の併用
受講対象	防災関係者(市町村職員、民間企業職員、NPO職員等)のうち、大学卒業程度の学力を有する者、または行政等の実務経験が3年以上ある者
募集人数	20名
受 講 料	50,000円(税込) ※全国治水砂防協会会員名簿記載市町村の職員に対しては受講料の補助あり

3. リカレント教育推進部の役割

リカレント教育推進部は、本プログラムを大学院レベルのリカレント教育プログラムとして位置づけるにあたり、学内調整および開講に向けた手続きを担当した。また、リカレント教育プログラム支援の一環として、講師への著作物等の使用方法に関するアドバイスと、講師との間で結ぶ著作物等利用許諾契約の支援を行った。これにより、社会人受講者に対しても安心して提供できる教材環境の整備に貢献した。

さらに、プログラムの趣旨や背景、めざす社会像を広く発信するため、CNHRの教員へのインタビュー記事「広域複合災害減災を強力に推進する専門人材養成プログラム開講～安心安全な社会の実現を目指して～」を制作し、リカレント教育プログラムのNews(インタビュー)として公開した。この記事では、防災教育の現状や北海道の地域特性、本プログラムの特徴と意義をわかりやすく紹介している。



北海道大学エンジニアコミュニティ構築プロジェクト実践教育プログラム ～ Hokudai Tech Academy ～

リカレント教育推進部は、2025年6月21日（土）から8月23日（土）にかけて、AI・IoTなどの先端技術を実践的に学ぶ全9回の教育プログラム「Hokudai Tech Academy」を開講した。本プログラムは、社会人と学生が同じ環境で学び合うことを特徴としており、世代や背景の異なる参加者が互いの知見を共有しながら学習を進める構成となっている。

講義では、生成AIとRaspberry Piを組み合わせ、音声認識・音声合成技術を活用したAIワークフローの構築を中心テーマとして扱った。PythonによるAPI連携、ハードウェア操作を伴うハンズオン演習、プロンプト設計の基礎、環境モニタリングなどの応用例に触れることで、受講者が自らの手で実装しながら理解を深められるよう設計されている。こうしたプロトタイピングを段階的に重ねることで、現場で活かせるスキルや、新しいアイデアを技術に落とし込む力の習得を目指した。

さらに、プログラム終了後には受講生が学習成果を発表する機会を設け、講義で得た知識や試作したプロトタイプを学外の参加者にも共有できる場を提供した。これにより、学びの成果を可視化するとともに、受講生同士や外部関係者との新たな交流やネットワーク形成につながる機会も生まれた。

Hokudai Tech Academy 概要

タイトル	北海道大学エンジニアコミュニティ構築プロジェクト 実践教育プログラム ～Hokudai Tech Academy～
テーマ	生成AI×音声認識×Raspberry Piを軸に、低コスト・高効率なAIワークフロー構築を実践的に学ぶ
期間	2025年6月21日（土）～8月23日（土）毎週土曜（全9回）
会場	北海道大学 中央キャンパス 総合研究棟2号館
対象	企業等に所属する社会人、北海道大学の学生
参加人数	20名（社会人6名、北大生14名）
形式	対面による講義＋ハンズオン実習 （授業支援のため、北大生の短期支援員を配置）
主催	大学院教育推進機構 リカレント教育推進部
内容	・講義：生成AI、Python、API、音声認識・合成、IoTの基礎と応用 ・実習：Raspberry Piを用いたハンズオン、API連携、音声対話システムなどの試作 ・プロジェクトワーク：受講者自身のアイデアをもとにしたペーパープロトタイプの作成

1. 活動内容

Hokudai Tech Academyでは、全9回の実践的な講義・演習を通じて「学びの場」と「発信の場」を一体的に設計した。

活動内容

プログラム設計・準備	・生成AI、音声認識・合成、IoTを横断したカリキュラム設計 ・Raspberry Piを用いた演習課題、環境構築手順、教材の作成 ・社会人と学生が一緒に学べるグループ構成・座席配置の検討 ・授業運営を支援する「短期支援員（北大生）」の募集・配置
当日の進行	・各回の導入講義（概念説明・事例紹介） ・Python・API・Raspberry Piを用いたハンズオン演習 ・受講者同士の相談・相互サポートを促すワーク形式の導入 ・個人または小グループで「アイデアの実装」「簡易プロトタイプ」まで行う集中演習を実施
学習支援体制	・短期支援員（北大生）による質問対応、環境トラブル時のサポート ・進捗差が出ないよう、コードレビューや個別フォローを実施 ・講義後も自習しやすいよう、教材・サンプルコードを共有

2. 成果

本プログラムを通じて、以下のような具体的な成果が得られた。

実務に直結するスキルの獲得

生成 AI、IoT、クラウドを組み合わせたワークフロー構築や、Raspberry Pi を用いたプロトタイピングの基礎を習得し、現場での業務改善や新規サービス検討に応用できるレベルのスキルを身につけた。

社会人と学生が交わるコミュニティ形成

社会人と学生が同じ課題に取り組むことで、互いの経験や視点を持ち寄りながら学ぶ「実践コミュニティ」が形成された。

運営面の学び

短期支援員の配置により、質問対応や実習サポートの質が向上した。今後の実践教育プログラム設計においても、学生スタッフを活用した運営モデルの有効性が確認された。

受講者からの主な声（アンケートより）

- ・ 講師の説明が丁寧で、演習時間も十分にあり、着実に理解を深めることができた。
- ・ 短期支援員にすぐ相談できたので、つまづいてもその場で解決できた。
- ・ DAY1 の Raspberry Pi ハンズオンで、AI とハードウェアの可能性が具体的にイメージできた。
- ・ 環境構築と API の準備が整っていたため、ネット情報を探し回るよりずっと分かりやすかった。



会場および実習の様子





北大道新アカデミー

北大道新アカデミーは、2017年度に締結された北海道大学と北海道新聞社の包括連携協定に基づき、北海道大学と北海道新聞社の共同主催として2018年度から実施している、北海道大学の教員による、市民向けのプログラムである。本企画は、2023年度より本学のリカレント教育の柱のひとつに位置づけられ、全学的な取り組みとしてリデザインされた。企画運営は（株）道新文化センターとリカレント教育推進部が担当している。今年5月には、リカレント教育推進部と道新文化センターの間で覚書をかわし、連携強化を図っている。

本プログラムは前期と後期に分かれている。前期は文系コースと理系コース、後期は理系コースと総合コースの2コース体制である。今年度後期より、講義回数を全8回から全6回にコンパクト化した。前期・後期共に、北海道大学札幌キャンパスの教室を会場として行った。

受講生は入学金（2,200円：以前に入学金を納めた者は不要）と受講料を道新文化センターに支払って受講する。受講料は、前期26,400円（税込）、後期23,100円（税込）である。

前期の理系コースは、薬学研究院が「薬学研究の不思議な世界～薬学が創る新しい医療～」、文系コースは、教育学研究院が「[学習]とは何か～学びを深める学びを学ぶ～」と題してそれぞれ開講した。後期の理系コースは、理学研究院が「100年の時をこえて～「なぜ？」をつなぐ理学の継承者たち～」、総合コースは「ワインは北から～北海道の新たなフロンティア～」と題し、北海道ワイン教育研究センターに所属する農学研究院、地球環境科学研究所、メディア・コミュニケーション研究院の研究者と、水産科学研究院の研究者が講義を担当した。各コースの第1回には、本学の寶金清博総長が開講の挨拶をビデオメッセージを通じて行った。

北大道新アカデミー 2025年前期

コース	【理系】薬学研究院		【文系】教育学研究院		
タイトル	薬学研究の不思議な世界 薬学が創る新しい医療		「学習」とは何か 学びを深める学びを学ぶ		
概要文	薬学研究院の8人の研究者が、身近な薬学研究が新しい医療を創る過程を語ります。日常の薬の背景にある最先端技術や研究、未来の医療についてわかりやすく解説します。がんや感染症、慢性疾患の最新治療法から次世代医薬品開発まで、薬学研究の魅力を幅広く紹介し、薬学が私たちの健康を支える仕組みを学びます。		学習することは私たちにとって身近な事柄のように見えますが、改めて考えると、それは様々な見方や考え方、性質や機能、領域や場面とかがわっていることがわかります。「学習」とは何か、「教育」とは何か、「学ぶ」とはどういうことかを切り口に、私たちの生活と学ぶことの関係や誰もが学習する機会にひらかれた社会について考えます。		
時間／受講数	13:30～15:00 (90分) 受講者数98人		15:30～17:00 (90分) 受講者数83人		
日付	タイトル／講師名	概要文	日付	タイトル／講師名	概要文
第1回 4/12	セラミドによる皮膚バリア形成 薬学研究院 木原章雄 教授	皮膚角質層に存在するセラミドによる透過性バリア形成の分子機構と、その異常による病態についてお話しします。	第1回 4/12	教育 (education) の由来 教育学研究院 白水浩信 教授	educationの原義は「能力を引き出すこと」といわれています。このことをラテン語までさかのぼり確かめます。
第2回 4/19	新しい薬を創るとは？ 薬学研究院 乙黒聡子 技術専門職員	新しい薬とはどのように見つけ、育て、患者さんに届けるのか。創薬スクリーニングについてお話しします。	第2回 4/19	日本型公教育・学校システムにおける教育機会保障 教育学研究院 篠原岳司 准教授	この講義では、日本型の公教育・学校システムの現代的課題に対し、今日の多様な学びと教育機会保障の取り組み例から将来展望を論じます。
第3回 4/26	医薬品開発におけるタンパク質・抗体 薬学研究院 黒木喜美子 教授	タンパク質とくすりの関係、特に近年注目される抗体の機能と医薬品としての可能性について紹介します。	第3回 5/17	思春期になるとなぜ問題を起こせるようになるのか？ 教育学研究院 加藤弘通 教授	この講義では、発達という観点から、思春期になると、なぜ子どもの問題が起きてくるのかを考えます。
第4回 5/24	くすりのリスク ～確かな情報を基にした、安全なくすりの使いかた～ 薬学研究院 小林正紀 教授	くすりを安全に、そして効果的に使うために何に気をつけたらよいかわかりやすく説明します。	第4回 5/24	人間発達における乳幼児期 教育学研究院 川田 学 教授	人間の乳幼児期の発達の特徴をふまえ、現代社会で不可欠となっている社会的保育の役割と課題について考えます。
第5回 5/31	細胞を「くすり」として使う再生医療 薬学研究院 大西俊介 教授	iPS細胞や間葉系幹細胞など、細胞を用いて病気を治そうとする試みがなされていますが、その現状と展望についてお話しします。	第5回 5/31	読み能力の習得と発達性ディスレクシア 教育学研究院 関あゆみ 教授	学習の要でもある読みの能力の習得について、その困難である発達性ディスレクシアを通して考えます。
第6回 6/14	自然から薬のタネを探す 薬学研究院 吉村 彩 助教	環境中にいる微生物の力を借りて薬のタネになりそうな物質を探す研究についてお話しします。	第6回 6/14	できない身体から学びを問う 教育学研究院 山崎貴史 准教授	障害のある人びとのスポーツ実践から、学びとは何か、「できる」や「能力」とはいったい何なのかを考えます。

第7回 6/21	快と不快の脳科学 薬学研究院 南 雅文 教授	快・不快は、何のために必要なのか？ どのような病気に関係するのか？ 快と不快の脳科学についてお話し します。	第7回 6/21 経済発展と「学び」～イン ドでの「貧困と教育」調査 から～ 教育学研究院 佐々木宏 准教授	急速な経済発展のなか大きく変化す るインドの教育の姿から、教育と社 会について考えてみたいと思いま す。
第8回 6/28	私たちの体を守る！ ミト コンドリアとナノカプセル の未来 薬学研究院 山田勇磨 教授	体の「エネルギー工場」ミトコンドリアに注目し、ナノカプセル技術が医療をどう進化させるかをわかりやすくお話しします。	第8回 6/28 「学びなおし」を考える 教育学研究院 辻 智子 教授	生涯学習やリカレント教育が要請されるようになった社会のありようを「学びなおし」を手がかりに考えます。

*会場 人文・社会科学総合教育研究棟W103

北大道新アカデミー 2025年後期

コース	【理系】理学研究院		【総合】		
タイトル	100年の時をこえて～「なぜ？」をつなぐ理学の継承者たち～		ワインは北から～北海道の新たなフロンティア～		
概要文	北海道大学理学部は1930年に設立され、現在に至ります。この間、世界のあまねく現象の「なぜ」を追究する理学研究は著しく発展してきました。100年前の出来事や世界的な研究にどのようなものがあり、それを踏まえて現在、どのような研究が進められているのか、その未来は？ 6分野の研究者がご紹介します。		北海道を世界に通用するワインの産地にする取り組みが、北海道ワインバレー構想です。その拠点となる北海道大学の研究者が、ワインに関わる研究成果を紹介します。講義を聞くとワインの味わいが少し違ってくるかも？		
時間／受講数	13：30～15：00 (90分) 受講者数84人		15：30～17：00 (90分) 受講者数48人		
日付	タイトル／講師名	概要文	日付	タイトル／講師名	概要文
第1回 9/20	アインシュタインの相対性理論とその量子論への挑戦 理学研究院 鈴木久男 教授	現代科学の基礎となっている量子論とアインシュタインの相対性理論を、わかりやすく紹介していきます。	第1回 9/20	北海道のワイン サステイナブルテロワールを目指して 農学研究院 曾根輝雄 教授	本講義では、北海道のワイン造りの現状と、地域の持続性を高めるためのワイン教育研究について解説します。
第2回 10/11	大陸はなぜ動くのか～実験室から地球内部を探る～ 理学研究院 篠崎彩子 准教授	ウェーゲナーが大陸移動説を唱えてから約100年。プレートの移動を起こす地球内部に関する研究をお話しします。	第2回 10/11	ワインのマーケティング メディア・コミュニケーション研究院 中川 理 教授	ワインと消費者との顧客接点の現状と在り方に関する調査結果や、ワインのマーケティング戦略を紹介いたします。
第3回 10/25	動物の誕生～受精で始まる形づくり～ 理学研究院 小谷友也 准教授	1924年、頭部・背中を誘導する組織が発見されました。受精卵から体をつくる研究についてお話しします。	第3回 10/25	化学と発酵を使ったブドウとワイン・チーズづくり 地球環境科学研究院 川口俊一 准教授	土壌改良からはじめるブドウづくりと、おいしさを測る技術を用いたワイン・チーズづくりについて学びます。
第4回 11/1	現代数学とはなにか。自然科学からの自立と協調 理学研究院 井ノ口順一 教授	20世紀に数学は「現代数学」へと進化・変貌しました。100年前を起点に数学の進化の過程と未来を解説します。	第4回 11/1	ワインに合う！ 美しく美味しいカキを作るための動きの研究 水産科学研究院 富安 信 助教	ワインに合う、美しく美味しいカキをつくるためには何が必要でしょうか？ かごやカキの動きに注目すると面白いことが分かってきました。
第5回 11/8	次世紀に向けた物質・エネルギー変換 理学研究院 村越 敬 教授	文明を変えた100年前のハーバー・ボッシュ法。次の時代の社会に求められる化学反応と一緒に考えましょう。	第5回 11/8	北海道産ワインのための土づくり～土壌中の根系分布の特徴～ 農学研究院 柏木淳一 講師	上質なワインを得るためのブドウは、選ばれた土地でのみ栽培できます。北海道における「土地」の土壌条件について紹介します。
第6回 11/22	十勝岳～災害・観測の歴史と現在～ 理学研究院 青山 裕 教授	大正泥流から100年を迎える十勝岳。20世紀以降の噴火活動や近年の観測研究の成果についてお話しします。	第6回 11/22	ワイン用ブドウ栽培から考える北海道の気候 農学研究院 根本 学 客員教授	ワイン用ブドウを栽培する環境として、北海道の気候の特徴を国内外の他の産地との比較で考えます。

*会場 理学部大講堂

2025年度の受講生は前期181人（理系98人、文系83人）となり、半期の開講としては過去最高の参加者であった。後期の受講生は132人（理系84人、総合48人）である。前期と後期を合わせて合計313人の受講は、2024年度について過去最高を更新した。2024年度と比較すると受講者は約1.2倍増となっている。北大道新アカデミーは2026年度も継続して実施することが決まり、現在、会場の教室確保を進めている。



共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム

リカレント教育推進部は、令和7年度札幌市大学と民間企業等との連携による公益的事業の推進事業補助金に「札幌市の劇団他と連携した「共生を支えるコミュニティマネージャー」養成事業」（以下、本事業）を単年度の事業として申請し、6月末に採択された。リカレント教育推進部は、本事業を、公益財団法人北海道演劇財団、一般社団法人劇団弦巻楽団、北海道大学サステナビリティ推進機構 SDGs 事業推進部門、札幌市まちづくり政策局政策企画部ユニバーサル推進室と連携して実施している。

本事業は2024年度に実施した「札幌市の劇団他と連携した演劇的手法による地域課題解決に取り組むプロジェクトマネージャー養成事業」の後継に相当する。

本事業の核は「共生を支えるコミュニティマネージャー（ささマネ）」の養成を目的とした、社会人の学び直し（リカレント教育）プログラム「共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム」（略称：ささプロ）の開発・実施である。1年の準備期間を経て、2025年10月に約3カ月のプログラムとして開講した。

ささプロ概要

タイトル	共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム（ささプロ）
テーマ	札幌市のまちづくりの柱の1つ共生（ユニバーサル）の実現を目指す、共生を支えるコミュニティマネージャー（ささマネ）の養成
募集期間	2025年8月18日（月）～9月16日（火）正午
開講期間	2025年10月19日（日）～2026年1月30日（金）
受講条件	高等学校または中等教育学校（中高一貫校）の卒業者
受講者数	22名（全員社会人）
形式	オンデマンド講義・演劇創作集中演習（以上、必修科目）・ワークショップ（選択科目）

1. ささプロのプログラム構成

ささプロのプログラムは、必修科目である、オンデマンド講義（20講義）と演劇創作集中演習（2日間14時間）と、選択科目のワークショップ（3回）で構成されている。

ささプロのプログラム構成

プログラムの種類	区分	特徴	方法
オンデマンド講義	必修科目	30～40分ほどの講義動画をオンラインで視聴して受講。共生社会についての知識、イベント設計と運営のスキル、演劇創作について学ぶ。	オンライン
演劇創作集中演習	必修科目	演劇の専門家の協力のもと、2日間の演劇創作集中演習を行う。受講者はグループに分かれて2日間で15分ほどの演劇作品を創作する。他者と協働するためのコミュニケーションや、リーダーシップ、チャレンジすることの重要性を体験的に学ぶ。	対面
ワークショップ	選択科目	共生社会に関する専門家と対話し、参加者同士で情報共有を行う。参加者同士のネットワーキングも兼ねる。	対面

2. ささプロの活動

ささプロ募集サイトの構築・公開

ささプロの募集用のサイトを構築し8月19日に公開した。本サイトは今後CMS化することで、汎用的に使える募集サイトの雛形として展開することを計画している。



ささプロの募集サイト

『ぼくが生きてる、ふたつの世界』上映会・呉美保監督特別講演開催

ささプロの開講に先立って実施した、2025年8月24日（日）に実施した上映会と特別講演では、映画『ぼくが生きてる、ふたつの世界』の上映に合わせ、監督の呉美保氏を招き、講演を行った。上映会には、秋元克広札幌市市長からのメッセージが寄せられた。

『ぼくが生きてる、ふたつの世界』上映会・呉美保監督特別講演会概要

日時／場所	2025年8月24日（日）13：00～16：30（会場 12：30）／北海道大学学術交流会館講堂
公演方式	対面・事前申込制・手話通訳あり（札幌聴覚障害者協会より2名派遣）・無料
参加人数	191名（申込人数 290名）
主催	北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部
共催	一般社団法人劇団弦巻楽団、公益財団法人北海道演劇財団、札幌市まちづくり政策局政策企画部ユニバーサル推進室、北海道大学サステナビリティ推進本部SDGs事業推進部門
協力	シアターキノ



呉美保監督（左）と対談する種村剛特任教授（右）

ささプロ説明会

前述の上映会に合わせて、リカレント教育推進部およびささプロの説明会を実施した。翌日の8月25日（月）には、オンライン説明会を開催した。オンライン説明会は録画し、オンデマンド説明会として公開した。

ラーニングマネージャーの導入

ささプロの特徴である「オンラインによる学び合いの場」を成立させるために、ラーニングマネージャーを導入した。LMはラーニング・マネジメント・システム上で行われる講義や議論の記録、講師のアシスタント、発言を促す場づくり、対話・交流の働きかけ、まとめの発信、課題の指示・定期的な連絡を行い「講師と参加者とは異なる立場で学びの場に関わり、参加者の迷い、期待、不安に寄り添い、学びに伴走する役割」を果たす。

演劇的手法の研究会

2024年から継続して北海道演劇財団・劇団弦巻楽団の関係者、および本事業の演劇創作集中演習に参画する実演者（役者・演出家）のチームビルディングやスキルアップを目的として「演劇的手法の研究会」を実施している。

演劇的手法の研究会の概要

第5回	日時：2025年12月9日（火）19：00～21：00 昨年度の研究会を振り返る研究会
第6回	日時：2025年12月15日（月）18：30～20：00 「まちのはじまりと場の記憶」鑑賞会
第7回	日時：2026年1月8日（木）19：00～21：00 鑑賞会の振り返り研究会
第8回	日時：2026年1月30日（金）19：00～21：00 シアターゲームを試行する研究会

「共生のまちづくり」を考える市民ワークショップ実施協力

ささプロは、2025年12月13日（土）、札幌市まちづくり政策局ユニバーサル推進室（以下、ユニバーサル推進室）が主催となって実施した「「共生のまちづくり」を考える市民ワークショップ」に、北海道LSPファシリテーターズと共に協力として参画した（P.11）。



2025年度リカレント教育推進部年表

2025年	事 項	備 考
4月8日	2025年度第1回大学院教育推進機構リカレント教育実施委員会開催	
4月12日	2025年度北大道新アカデミー前期講座開講(理系コース:薬学研究院、文系コース:教育学研究院) 資金総長開講挨拶動画公開(YouTube)(～6月28日)	
5月15日	Hokudai Tech Academy(北大テックアカデミー)記者発表会 (札幌市補助金事業「北海道大学エンジニアコミュニティ構築プロジェクト実践教育プログラム～ HokudaiTechAcademy～」)	
5月22日	北海道大学エンレイソウトークイベントKnowledge Park04～コミュニケーションビギナーズSTEP講座～開催	
6月10日	2025年度第2回大学院教育推進機構リカレント教育実施委員会開催	
6月21日	Hokudai Tech Academy(北大テックアカデミー) (共催:半導体フロンティア教育研究機構)(～8月23日)	新規開講
7月19日	HBC赤れんがプレミアムフェスト企画参加 北海道ワイン教育研究センター「ワインは北から」	
8月4日	2025年度第3回大学院教育推進機構リカレント教育実施委員会開催	
8月24日	『ぼくが生きてる、ふたつの世界』上映会・呉美保監督特別講演開催 (札幌市補助金事業「札幌市の劇団他と連携した演劇的手法による地域課題解決に取り組むプロジェクトマネージャー養成事業」)	
9月1日	IDE大学協会北海道支部セミナー 「知の循環と地域の創生:リカレント教育による大学の挑戦と展望」企画協力	
9月6日	札幌市主催「さっぽろまちづくりワークショップ」共催	
9月7日	2025年度北大道新アカデミー後期講座開講(理系コース:理学研究院、総合コース:ワイン教育研究センター他) 資金総長開講挨拶動画公開(YouTube)(～11月22日)	
9月11日	第74回東北・北海道地区高等教育研究会 事例報告	
9月13日	Hokudai Tech Academy(北大テックアカデミー)「Vibe Coding体験会・プロダクト展示」開催	
10月1日	オンライン学習管理システム(learningbox)運用開始	
10月7日	GX未来社会デザイン実践プログラム〈基礎編〉 (令和6年度補正予算事業「グリーンビジネスとGXで拓く、未来志向リカレント教育エコシステムの構築」)	新規開講
10月19日	共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム(ささプロ) (札幌市補助金事業「札幌市の劇団他と連携した演劇的手法による地域課題解決に取り組むプロジェクトマネージャー養成事業」)	新規開講
11月4日	事務補佐員 着任	
12月13日	札幌市主催「[共生のまちづくり]を考える 市民ワークショップ」協力	
12月15日	しまなみ未来社会人材育成プラットフォーム「地域ハブ人材育成のための経営者・管理職セミナー in 今治」講演	
12月16-18日	GX未来社会デザイン実践プログラム〈応用編〉@雨龍研究林 (令和6年度補正予算事業「グリーンビジネスとGXで拓く、未来志向リカレント教育エコシステムの構築」)	新規開講
1月12日	GX未来社会デザイン実践プログラム〈基礎編〉講義動画視聴終了・閉講	
1月12日	第44回ProjectHESOセミナー出席	
1月27-28日	「リカレントサミット in 札幌～地域共創型プログラムの実践と展望」開催 (令和6年度補正予算事業「しまなみ未来社会人材育成プラットフォーム「地域ハブ人材創出支援事業」」)	
1月30日	共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム(ささプロ)閉講	
2月4日	2025年度大学院教育推進機構リカレント教育アドバイザリー・ボード開催	通算3回
2月17日	しまなみ未来社会人材育成プラットフォーム「アイデアミーティング in 呉」講演	



記事掲載、ワークショップおよび講演協力他、研究および外部資金の獲得

1. 記事掲載

2025 年のリカレント教育推進部の活動は以下の媒体に掲載された

『北大時報』

- ・大学院教育推進機構「大学院教育推進機構リカレント教育推進部が 2025 年度前期北大新アカデミーを開講」『北大時報』857 (2025 年 8 月), p.16., https://www.hokudai.ac.jp/pr/pdf/jihou_25_8.pdf
- ・大学院教育推進機構「映画『ぼくが生きてる、ふたつの世界』上映会と呉 美保監督特別講演を開催」『北大時報』859 (2025 年 10 月), p.26., https://www.hokudai.ac.jp/pr/pdf/jihou_25_10.pdf

記事

- ・矢野旦「デジタル技術教育 社会人向けに開講 北大が 6 月から」『北海道新聞デジタル』(2025 年 5 月 15 日), <https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1160006/>
- ・「北海道大学 生成 AI などの技術を実践的に学ぶ講座 来月開講」『NHK NEWS WEB』(2025 年 5 月 16 日), <https://reh.grad.hokudai.ac.jp/news/1152>
- ・佐藤悠乃「共に生きることを考える 『ぼくが生きてる、ふたつの世界』 上映会・呉美保監督特別講演 開催」『北海道大学新聞』(2025 年 10 月 11 日), <https://www.hokudaishinbun.com/2025/10/11/10313/>

寄稿

- ・種村剛「北海道演劇財団と北海道大学が協働して取り組む「共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム」」北海道演劇財団広報誌『H-PAF NEWS』60 号 (2025 年 4 月), p.4., <http://www.h-paf.ne.jp/wp-content/uploads/2014/10/kouhou-60.pdf>

2. ワークショップおよび講演協力他

リカレント教育推進部のスタッフは、他部局や組織が実施するリカレント教育の推進を目的としたワークショップや講演会に協力することで、多様な視点を取り入れ、より効果的で魅力的な社会人向け教育プログラムの構築を目指している。

株式会社 LITALICO パートナーズへの ヒアリングとワークショップ

日 時	2025 年 5 月 9 日
場 所	LITALICO ワークス 新さっぽろ第 2 オフィス
内 容	ヒアリングおよびレゴ®シリアスプレイ®を用いたワークショップの実施
講 師	川本思心
リンク	https://reh.grad.hokudai.ac.jp/news/1144

「ワインは北から」 HBC 赤れんがプレミアムフェスト

日 時	2025 年 7 月 19 日
場 所	札幌北 3 条広場
主 催	HBC 北海道放送
内 容	曾根輝雄教授 (北海道ワイン教育研究センター センター長) 講演、リカレント教育推進部は企画立案を担当
リンク	https://reh.grad.hokudai.ac.jp/news/1637

第 5 回高等教育研究セミナー

日 時	2025 年 9 月 5 日 13:30 ~ 15:30
場 所	対面
主 催	北海道大学高等教育推進機構高等教育推進部
内 容	大学の生き残り時代におけるマイクロフレデンシャル：韓国における教育リソース共有の事例から
講 師	野田文香 (大学改革支援・学位授与機構)、鄭漢模
リンク	https://high.high.hokudai.ac.jp/20250710-1/

地域ハブ人材育成のための 経営者・管理職セミナー in 今治

日 時	2025 年 12 月 15 日 19:00 ~ 21:00
場 所	今治地域地場産業振興センター
主 催	しまなみ未来社会人材育成プラットフォーム
内 容	北海道大学における地域共創型リカレント教育の現状
講 師	川本思心
リンク	https://reh.grad.hokudai.ac.jp/news/2201

第 8 回高等教育研究セミナー

日 時	2026 年 1 月 7 日 16:30 ~ 17:30
場 所	オンライン
主 催	北海道大学高等教育推進機構高等教育推進部
内 容	大学を地域共創のハブへ。一産学官民の新モデル Campus Everywhere 構想
講 師	横山真輔 (企画、司会進行：鄭漢模)
リンク	https://high.high.hokudai.ac.jp/20251216-2/

しまなみ未来社会人材育成プラットフォーム事業実施委員会 アイデアミーティング in 呉

日 時	2026 年 2 月 17 日 10:30 ~ 12:00
場 所	呉阪急ホテル
主 催	しまなみ未来社会人材育成プラットフォーム
内 容	1 月に実施したリカレントサミット in 札幌について報告し、地域人材育成の方針について議論
講 師	川本思心
リンク	https://reh.grad.hokudai.ac.jp/news/2473

3. 研究および外部資金の獲得

リカレント教育推進部のスタッフは、リカレント教育についての研究を行っている。

論文他

- ・種村剛 2025「高等教育機関とリカレント教育：1960年代から2000年代の行政資料の概念分析」中央大学社会科学研究所『年報』29（2024），p.109-127.

研究報告

- ・種村剛・川本思心・鄭漢模・佐久間泉真「札幌市の社会課題に対応したリカレント教育プログラムの企画・実施～「共生を支えるコミュニティマネージャー養成プログラム」を事例として～」第74回東北・北海道地区高等教育研究会（2025年9月11日）

外部研究資金の獲得

- ・種村剛（研究代表者）「オンデマンド講義と対面講義を併用したリカレント教育におけるラーニングファシリテーター人材を用いた学習支援と人材育成方法の探索と構築」（放送大学教育振興会助成金交付金 2025・2026年度）
- ・NTT 社会情報研究所とリカレント教育推進部の共同研究「共同行為における多様性と包摂性の涵養ならびにチームの状態遷移に関する研究」（2025年度）
- ・鄭漢模（研究分担者）「リカレント教育に向けた非伝統的学習の質保証メカニズムに関わる国際比較研究」（科学研究費補助金基盤研究B 25K00772、2025～2028年、研究代表者：野田文香）

北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部 2025 年 年次報告書

発 行 2026 年 3 月
発行者 北海道大学大学院教育推進機構リカレント教育推進部
〒 060-0817 札幌市北区北 17 条西 8 丁目 北海道大学高等教育推進機構 1F
TEL 011-706-5252 / 011-706-6870
e-mail rec_office@ml.hokkaido.ac.jp
印 刷 株式会社アイワード



北海道大学 大学院教育推進機構 リカレント教育推進部

Advancement of Recurrent Education Division, Institute for the Advancement of Graduate Education, Hokkaido University